

長野県革新懇ニュース

2016年1月号
(発行日1月10日)
年会費5000円(送料込)
振替 0510-3-15971

199

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：takamura.hiroshi.nagano-h@educas.jp

謹賀新年

本年も宜しく

お願い致します

1937年、沖縄県島尻郡南風原町生まれ。1945年沖縄戦を体験。琉球大学文学部化学科卒業。大学卒業後、島ぞうりの開発製造を手掛け、海外にも事業を展開。沖縄県議会議員(4期・自民党所属)、県議会議長(2006年6月～2008年6月)を歴任。2015年の総選挙に「オール沖縄」で沖縄第4区から無所属立候補、当選。



沖縄は平和を希求し 栄えていくことをめざす！

仲里利信 さん

(衆議院議員、沖縄第4区選出)

盾にされた沖縄戦

私の父は戦前、南風原国民学校の教員をしていて、その時に翁長知事のお父さんと同じ国民学校で教鞭をとっており、教鞭をやっていた青年学校の校長もされておりました。父が家に帰ることはほとんどなかったんですが、ある日突然夜中に帰宅して、この戦争は南部にいと全滅することになるから、すぐヤンバルへ逃げなさいということでした。宜野座村へ行きました。そこは夫婦の住まいでしたが、旦那さんは防衛隊にとられて、奥さん一人だけで、そこへ子ども5人を含め家族8名で疎開しました。米軍は3月26日に座間味島、28日には渡嘉敷島、そして4月1日には沖縄の読谷村に無血上陸しました。このときに住民側では座間味や渡嘉敷などで集団自決があったんです。

これについては、大江健三郎先生が「沖縄ノート」の中で日本軍の命令によって実行されたものと書かれています。ところが、生き残った当時の戦隊長二人が自分たちは命令をしていないという裁判を起こしました。これについてはすでに最高裁で原告の全面敗訴が確定していて、軍の命令だったことは明らかです。沖縄戦では32軍の司令官の牛島中将が首里城にいたのですが、首里城と宜野湾まで15kmほどあります。夜は日本軍が突撃をするという状況で、4月1日から5月27日まで空からは爆弾や機銃照射、陸上では炎放射器、海からは艦砲射撃が加えられました。海には1500隻の軍艦が集結し、包囲したと言われてい

ます。米軍は8万人、日本軍は5万人、これだけの人数が戦つて、とうとう5月27日に沖縄守備隊の32軍が撤退することになりました。そのときに牛島中将が大本営に無条件降伏の打電をしたところ、大本営からは「何言うか、最後の一人まで戦え」との指令が出されました。それから大変でした。20万人ぐらいたんですが、軍民共死、つまり一緒に戦い、一緒に死ぬという状況になりました。日本の兵隊も民間人の中にいれば助かるということとで、紛れ込んできました。

5月27日までの犠牲者は3万人ぐらいたんと言われていますが、慰霊の日の6月23日までは軍民合わせて17から18万人の犠牲が出ました。思えば、最後の一人まで戦えと命じたのは、本土決戦を延ばすための手立てだったわけですね。結局、沖縄が盾、要塞にされたわけですね。また、沖縄の人は標準語が分からないので、琉球方言を使うわけですが、そうすると、スパイだということと日本軍に虐殺されるようなこともありま

保革を超えた大集会

そういう状況がある中で、2006年の第1次安倍政権が高等学校の歴史教科書に手をつけたときは

大変な反発が起こりました。それまで、集団自決は日本軍の命令という記述がありました。安倍政権のもとで「日本軍による」という記述が削除されたのです。このときには41市町村すべての議会が全会一致をもって教科書検定の撤回を求める決議が上がり、最終的には県議会に最後の手綱を渡されたわけですね。

その時点でひめゆり学徒隊をはじめ、さまざまな団体が何としても県民大会を開き、沖縄の全国や国に示す必要があるということと立ち上がりました。しかし、県議会の中には本土自民党と歩調を合わせる勢力があり、大江裁判の結論が出ないためだということでしたが、丁度その時、私は県議会議長で、文教厚生委員会にも属していたので、まず実態調査をやるという提案が、保守側から1名、革新側から1名代表が出て1週間ほど聞き取り調査を行いました。しかし、結果的には聞き取りできませんでした。あんな忌まわしいこと、今まで子や孫にも言わなかったことを堂々と知らしめることはできない、だから自分一人で「グソー」(あの世)に持っていくということでした。そこで自民党さんも共産党さんも自分達の主張が通らなければだめだということとなく、この際みんな腹6分、8分で考

えて一緒にやろうということとで私の戦争体験を話しました。そこで皆さんがよし分かったということで、急遽1ヶ月間で準備をし、県民集会が9月29日、小雨の中宜野湾の海浜公園で行われ、11万6000人が埋め尽くしました。那覇からの道路は大渋滞で、宜野湾からはバスより歩く方が早かった。したがって、実質的には15万、沖縄県の人口は140万ですから、大変な集会になりました。あの文面が無くなっただけで、それほどまでに多くの皆さんが集まったわけで、沖縄県民の怒りがどれ程のものであったかお分かりになると思います。

背を向けた自民党と首長

私は集会の実行委員長だったんですが、あの熱い思いを誰かが伝えなければいけない、それが私に課せられて責務だと思いましたが。当時の協賛団体は260以上で、一緒になって大会を成功させました。が、沖縄に米軍基地がある以上はかならずや戦争につながるものであるから県民が団結し一つにならないければならないと訴えてきました。これ以来沖縄にはオール沖縄が定着しました。

電にして電話をとらなくなるほどでした。戦争に加担するようなことは一切ダメだということで5月に後援会長を辞め、自民党の県連の顧問も辞めました。11月25日、沖縄の自民党の国會議員5名が石破幹事長の後ろに座らせられて辺野古承認の報告を行った時の姿を見たときのウチナンチュは本当にこの上ない侮辱、さびしい思いをしたと思います。彼らも沖縄から国会に向かう時は辺野古を承認しなさいと言われれば、自民党を離党して帰るんだと言っていました。翌日には豹変しました。12月1日には自民党の沖縄県連も承認しました。そして、29日には国が埋め立ての申請を行いました。

県の環境保健部長はあの申請書では辺野古の環境保全は不可能だという結論まで出していました。13年の12月25日、仲井間前知事が安倍首相とともに有史以来の予算をもらった、5年以内の普天間の返還の約束を取り付けた、普天間以南の返還も実現したと大威張りしてPRしていました。それに呼応して、若い首長4名が知事のところに行つて激励しています。そして20数名の首長が仲井間氏の支持を表明しました。その理由は、自分達は仲井間知事の実績を評価し、特に振興予算の大幅の確保、一括交付金の創設、この二つで仲井間氏を推すというものでしたが、その時点で仲井間さんはすでに辺野古を承認していたわけです。41名の